

帝国主義戦争に抗するギリシャ労働者と連帯を！

別掲翻訳記事にあるように、四月六日、ギリシャのテッサロニキ港でウクライナ戦争へのNATOの介入（NATO艦船による東欧への軍事装備輸送）に抗議する大規模なストライキ集会が開かれた。これに対し警察権力が弾圧を行ない八名の集会参加者が不当逮捕された。その中にはギリシャ共産党（KKE）と共産主義青年同盟（KNE）の中心メンバーも含まれていた。ここに掲載するのは、この闘いへの国際的な連帯の表明を要請するKKE中央委員会の文章とそれへの〈活動家集団思想運動〉常任運営委員会の応答文である。【編集部】

ギリシャ共産党への応答文

プロレタリア国際主義の旗のもとに連帯を表明する

〈活動家集団思想運動〉常任運営委員会

親愛なる同志のみなさん！

ロシアとウクライナ（その背後にいるNATO・アメリカ合衆国・EU）との帝国主義戦争に参戦しようとするギリシャ政府（ND）に反対して、自国帝国主義との闘いを足元から組織し、生産と流通の現場をストップさせるストライキで闘う貴党ならびに全ギリシャ戦闘的労働者戦線（PAME）に組織された労働者のみなさん、そしてその闘いを支持し行動をとる大衆諸組織のみなさんに、日本の地からこころより同志的な連帯の挨拶を送ります。

帝国主義戦争を止めさせるために、世界の労働者階級と勤労人民は、自国の戦争遂行勢力に対してストライキで闘う——このもっとも階級的でプロレタリア国際主義の精神ののびのびとした原則的な闘いを、貴党ならびに貴党のもとに結集する労働者・勤労人民は実践しています。その闘いは、国境を越えて全世界の労働者階級・勤労人民を鼓舞し、帝国主義戦争に反対する闘いの指針を指し示しています。わたしたちは、貴党のこの実践を断固として支持します。

そして、このストライキ闘争の最中に警察権力の弾圧により、二名の貴党中央委員と一名の共産主義青年同盟（KNE）中央評議員をはじめとするストライキ参加者八名が不当に逮捕され、六月十五日に裁判にかけられるという事態に対して、わたしたちは、帝国主義戦争に反対して闘う全世界の労働者兄弟・姉妹たちとともに、満腔の怒りでギリシャ司法当局のこの暴挙を糾弾するものです。ギリシャ司法当局は、反戦闘争を先頭で闘った八名の同志たちの政治的自由をただちに保障せよ！

帝国主義戦争によって命を奪われ、傷を負い、また居住地を追われて難民の生活を余儀なくされるのは、つねに労働者・勤労人民の側であり、決して支配階級の側ではありません。支配階級は、自分たちの手は汚さずに、この戦争に人殺しの武器を供与して大儲けしています。とりわけ、NATO・アメリカ合衆国・EUの為政者たちと、かれらと行動をとる日本の岸田政権は、「人道主義」の仮面をかぶり「ワニの涙」を流す偽善的なゼスチャーを行なって、この悲惨な戦争を長引かせるだけ長引かせ泥沼化させることによって、そこから帝国主義の分け前を得ようと露骨な策略をめぐらし実行しています。その姿は、貴国のND政権と瓜二つです。

こうした中で、さる三月二十三日にウクライナ大統領ゼレンスキーがオンラインでおこなった日本の国会における演説では、ごく一部の国会議員を除いて与野党議員が挙げて参加し、演説終了後にはスタンディングオベーションが起こりました。これまでわたしたちは、同様の無残な姿を、日本の近代以降、日本資本主義が帝国主義化していく過程で何度

も目撃してきました。

こうした帝国主義戦争の濁流に抗して、わたしたちがとるべき態度はどうあるべきか？

それは、カール・マルクスが一八六四年に起草した次の呼びかけにあざやかに示されています。《……国際政治の秘密に通曉し、自国政府の外交行為を監視し、必要とあればそのもちあわせているあらゆる手段をもちいてこれを妨害し、阻止できない場合には団結していっせいに弾劾し、私人の関係を規制すべき道徳と正義の単純な法則を諸国民の交際の至高の準則として確立すること……》（『国際労働者協会創立宣言』より）

この呼びかけこそ、わたしたちがとるべき態度であり、貴党ならびにPAMEとそれを支持する大衆諸組織が、いままさにギリシャの地で実践している姿です。

階級共滅を招来させかねない熱核戦争の危険のもとにある現代世界において、アメリカ帝国主義とその同盟国である日本帝国主義は、アジアにおいても戦争放火の手を緩めてはいません。中国や朝鮮民主主義人民共和国はそのことをこれまでの経験によって熟知しているからこそ、防備を怠らず、ウクライナ事態の外交上の解決を要求しているのです。いまも米海軍の「エイブラハム・リンカーン」空母打撃軍が日本海＝東海上に入り、四月十三日からの日米合同軍事演習に続いて十八日からは米韓合同軍事演習が強行されようとしています。ウクライナ事態はけっして「対岸の火事」ではなく、われわれが住む東アジア地域にも密接に関連しているのです。

わたしたちも『国際労働者協会創立宣言』を念頭において、戦争放火者どもの手をしばるために、日本の地でこころざしをおなじくする人びととともに行動していきます。

二〇二二年四月十七日

（『思想運動』1076号 2022年5月1日号）